

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

ΚΟΣΜΟΣ

特集 私の卒論・リポート攻略法



小笠原恭子さん画（教育学科1年）

『目ざめて悩んで…』

朝野江利子

「**国** 会図書館にこの資料がなかったの
ですが……」九月も終わろうと
する頃、情けない声を出している国文学科
の学生がいた。この文献が探せないと、次
に進めない。焦りの色は濃かった。それに
しても、なんでこんなに時間がなかったの
だろう。そりゃあ、教育実習もあったし、
教員採用試験なんでもあったのだ。で
も、みんながやっている事じゃないの。
最大の原因は、五月になって急にテーマ
を変えてしまったこと。教科書でおなじみ
の現代の詩人についてやろうとしていたの
に、急に「自分の国の古典も読めずに現代
詩が分かるわけがない」なんて目覚めたの
が始まりだったのだから。

間違いの元は、国会図書館に行けば欲しい資料が何でもあると思ったこと、これで見事に一日を棒に振った。資料の探し方すらおぼつかないことに愕然として、図書館の参考カウンターを訪ねたわけ。

親切に、その資料の所在を調べてくださった結果、他の大学の幾つかに所蔵されている事が判明。Ⅱ部学生で、昼間は調べに行けないと困っていると、複写依頼という方法があるので、直ぐに手配してくださいとの事。終わってみれば、笑い話だけど。一つ一つが手探り状態。そんな時、いいきっかけを与えてくれるモノの一つが、図書館。それにしても、九月からやっと資料集めでは、遅すぎる。その後の作業の悲惨さは涙なしでは語れなかった……。

皆さんの健闘を、祈ります。

(文学研究科・あさのえりこ)

とにかく

早く手を

つけよ!!

『図書館』

館長 松本 恒之

私

の学生時代の図書館は古城の中にあった。ゼミの準備やリポート作成のために頻繁に利用した。本の山の中にいる時は、幸せであった。また、図書館という居心地のよい心理的に孤立した世界での、来たるべき人生との対話は、不安でもあった。

図書館利用は、人それぞれである。本学の図書館も、多様な要求に応えるために、多くのサービスを提案している。レファレンス・サービス、AV等々映画もある。図書館は、多くの人との人間的接触を強く求めている。「コスモス」を読みやすい体裁に変えたもの、その一つのあらわれである。二年後にせまった白山新図書館の完成は、情報化を進めながら、大幅な開架方式にす

る予定である。

「皆さんに多くの本と出会って欲しい。」
これが新しい図書館長からのメッセージ
である。

(平成4年4月1日より就任)

『早目、早目……』

鈴木 大祐



図書館という一種の独特な雰囲気があるように思う。学食で友達とわいわい話しをするようなところではないし、かといって息が詰まってしまうような堅苦しい感じでもない。まあ、一人で過ごすには静かでない場所ではないだろうか。私はあまり図書館を利用するほうではな

いが、けっこう居心地はいいものである。たいいて窓際の風通しのいい場所に席を取って、靴をぬいでしまう。変だと思いかもしれないが結構気持ちいい。こんな風に寛いでしまうのだから本来するべきリポートの作成だって捗るわけがない。気が付くと寝てしまったということもあったりする。(いつも図書館に行くたびに寝ているわけではない。)

ところで、他の人はどうかしらないけれど、私は図書館にほとんど一人で行っている。友達がいないというわけではないが、一人で行くことが多い。どうしてそうなるのかは分からないが、かえてそのほうが友達との無駄話なんかをしないで済むので、結果的に一つのこと集中できるようなのである。

考えてみると、気持ちを集中させるには図書館はいい環境だと思う。締切りの迫りたりリポートを終わらせるには最高である。(締切り間際にならないとリポートに手をつけないという悪い癖はよくないかもしれないが…) こういう時は「リポートを終わらせなければならない」という気持ちがある

から寝てしまうことはないし、ほかに気を取られるものもないので意外と早く終わったりする。

でも、私の経験からいうと、リポートは早めに手を付けて、余裕を持って書いた方がいいように思う。特に専門教科のものは意外とてこずることが多いようなので、要注意である。

とにかく、図書館は居眠りができるくらい余裕をもって利用できたらいいのではないだろうか。

(工学部4年・すずきだいすけ)

気持ちを集中、
一気に完成

『これから論文に立ち向
かおうとする人達へ』
△ボクの場合▽

山中 茂生

大

学に入ってまず学生が直面し、困惑するのが「レポート」「論文」というなんとも曖昧で堅苦しい課題であるといえます。私も一年生の頃からゼミに所属していたせいもあって、この「論文」攻略には苦勞しました。しかし、これらの課題も慣れてしまおうと意外に簡単なものです。故に今回、レポートの攻略法は他の人に任せるとして、以下に私が七転八倒しながら得た「論文攻略法」を綴っていきたいと思います。

論文というのは、作文と違って出来事をただ綴って行けば良いというものではありません。与えられた課題や自分の問題意識に基づいて、それに関する本や資料を読み、

そこから導かれた自分なりの分析結果・結論を書かねばなりません。この時、参考にした本に対する意見ばかり書くと読書感想文になるし、本を丸写しすると著作権法違反になってしまうので注意しましょう。参考文献は自分で買うのもいいですが、図書館を利用すれば容易に入手する事が出来ます。特に資料などは図書館の方が集め易いでしょう。

絶えず持とう
問題意識

文献を読み、資料を検討してすぐに文にしようとする必要はありません。まずは大ざっぱな「流れ図」を書いてみる。導入・展開・結論を簡潔に書いてみてそこに肉付けしていけば、書いている最中に論点を見失う危険性が少ないでしょう。また、論文の文体は「である」調で綴り、自分の主張であるのに「私は〜であると思います。」

などと書いてまどろっこしい文にしないよう注意が必要です。

しかし、心配しなくてもこの類のテクニクは、たくさん他人の論文を読み、自分で書いていくうちに何となくものになってくるものです。そしてポイントとしては、絶えず独自の問題意識を持つ事だと言えるでしょう。短い学生生活の間に皆さんも積極的に論文に挑んで、自分なりのコツをつかめるよう頑張ってください。

(経済学部3年・やまなかしげお)

『こうして探せ!!』

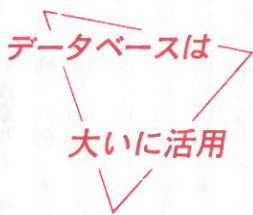
辻野 浩章

リ

ポートの攻略法といっても、いつも提出期限のぎりぎりになってからあたふたして書いているもんで、あんまり偉そうなことは言えないんです。そこで僕は、レポートを書くのにかなりの比重を占める本の探し方について書いてみたいと思います。

レポートを書くには、(ここでのレポートとは、先生から指定されたり自分で選んだテーマについて書くものを指します。)そのテーマに関する文献や論文や雑誌を探す必要があります。その時に多分図書館を使うことになるのですが、ふつう文献などを探す時は、棚に探している本が見つからばいいのですが、なければ諦めてしまうこ

とが多いですよ。特に大学図書館の場合は、公共図書館(いわゆる街中の図書館)と違って、ない本をすぐに別の図書館から借りれる訳じゃなかったりするので、その図書館になかったり、他の人に借りられていたら、すぐには手に入らないことが多いのです。それに希望した本を買ってくれる制度が、東洋大の図書館にはあるのですが、出版流通等の関係でどうしても本が届



くまでに時間がかかってしまうので、急いでいる時は諦めざるを得なくなります。しかし、朝霞分館には、J-BISCという本のデータベースがカウンターの横にあるので「そのテーマに関する本はどのような本があるのか」というようなことが調べられるようになっていきます。プリントアウトもできるので、近くの図書館へ行って探す時の手がかりになると思います。公共図書

館では、ない本を借りるネットワークがあるので、だいたい2、3週間で手に入るようです。

そこで本を手に入れたら、あとはレポートを書く人のセンスと実力にかかっていると思うんです。みなさんがばってください。(えっ、人のことより自分ががんばれよだっ?)

(社会学部2年・つじのひろあき)

『新勅撰和歌集』は後堀河天皇の勅命を奉じて、藤原定家が単独で撰進した第九代の勅撰和歌集である。「承久の乱」後十一年目の貞永元年（一二三二）六月に下命。同年十月、定家は御讓位直前の天皇に仮名序代と二十巻の部目録を形式奏覽。天福二年（一二三四）六月には草稿本の自筆浄書本を奏覽。この草稿本は歌数一四九八首、二十巻。八月六日、院崩御に遭遇、定家は落胆のあまり、翌日草稿本の原本を自庭で焼却。十一月九日、定家は九条道家から完成の依頼を受け、併せて後鳥羽院・順徳院以下の「承久の乱」関係者の歌百余首を削除することを要請された。翌十日、完成同然の草稿本から特定歌人達の歌を削除して進上、浄書は能書家に委ねた。文暦二年（一二三五）三月十二日、道家からの浄書依頼に応じた藤原行能は全巻の浄書を完了、定家の嫡男為家に届けた。同日、為家はこの精撰本と草稿本とを道家の許に進上した。茲に奉勅後二年九ヶ月を経て撰集の事業は最終的な完成をみた。

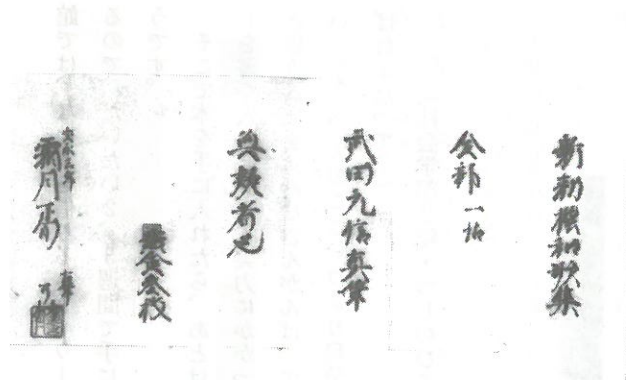
貴重書を訪ねて
第1回 『新勅撰和歌集』
千 艘 秋 男

このような撰進事情を有するため、『新勅撰和歌集』の伝本としては、草稿本と草稿本から百余首を削除（若干の切入れ歌を含む）した精撰本とが考えられる。伝本研究は樋口芳麻呂博士の『新勅撰和歌集』（岩波文庫）の解題、「日本古典文学影印叢刊13」の解説に詳しい。これらに拠れば、今日精撰本系統本のみが伝存し、伝本は四類に類別される。

さて、本学図書館蔵『新勅撰和歌集』の書誌を記す。室町後期写本。綴葉装、一冊。縦二四・一厘、横一六厘。表紙は桐花模様を織り出した青緑色の絹表紙で原装、本文料紙と共紙。見返しは布目の金紙に銀切箔を蒔く。外題は「新勅撰和歌集 全」の原題簽。内題は「新勅撰和歌集」。料紙は厚様の鳥の子紙。本文は半葉十行書（序は九行書）。和歌は一首二行書、詞書は三字下げ。製本、折帖十括九七枚（一九四丁）から成る。第一括最初の一丁を表紙、第十括最後の一丁を裏表紙とす。第一括に一丁、第十括に三丁の遊紙。墨付枚数は計一八四丁（序三丁、本文一八一丁）。総歌数一四七七首。第三括に四箇所の錯簡が存する。これは第三紙と第九紙とを綴じ替えることにより解決する。奥書・識語はなし。二重箱入り。共に後代のもので、外箱は杉箱。

内箱は桐箱、後人の筆で蓋中央に「新勅撰和歌集 武田もと信筆」と打付書き。蓋の右上に「天 第五四八號」と整理用の小紙を貼る。書写態度は極めて忠実にして丁寧で、能筆にして力強く、二葉流の書風を思わせる。見せ消ち訂正や補入箇所は僅少。本書の本文系統と特徴について述べる。精撰過程の伝本には除棄歌が一首もしくはそれ以上含まれている。除棄歌の歌数は伝本により区々であるが、都合八首になる。

武田後修九條 新勅撰和歌集



古筆了仲の「折紙」（左）と「極札」（右）

いずれも前代の勅撰集歌につき、定家が重
複に気付いた時点で除棄したものであろう
ことが判かる。本書は除棄歌八首中の三首
を収載する。それらは次の通りである（今、
紙幅の都合で巻数と初句のみを記す。仮に
1・2・3とする。図版参照）。

1 をしへをきて…（巻十五八五番歌）

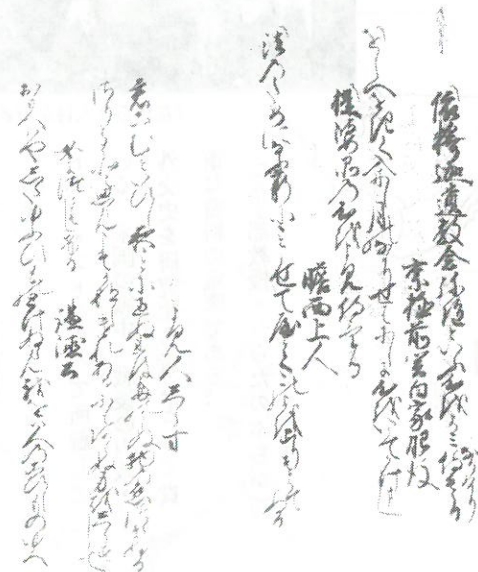
2 法のため…（巻十五八六番歌）

3 君こむと…（巻十四八六八番歌）

1・2は『金葉集』巻十、六三一・六三
五に、3は『新古今集』巻十三、一二〇七
に選入の和歌である。諸本と比較すると、
この三首を有するのは書陵部蔵（一五五・
一三九）本であるが、書陵部本は小字補入
の形で更に三首を収載し、より原初的な本
と考えられる。また、本書の1・2の詞書
と和歌の右肩には墨勾点が施され、1の詞
書上部に同筆細字で「無此二首哥」とあり、
書承関係説明の手掛りとなる。因に3に
は墨勾点は無く、この一首のみを含むと解
釈すれば精撰本に近い本となり、岡田稔氏
蔵本等との関連もあろう。これらの系統本
の何れかと相接した結果、中間的形態を持
つものになったのか、更に考察したい。

なお、本書には古筆了仲の鑑定書（折紙
と極札・極印）が添えられている。折紙は
「新勅撰和歌集／全部一帖／武田元信真筆

巻十及び巻十四収載の「除棄歌」



／無疑者也／黄金参枚／宝永三年／霜月下
旬／古筆了仲【釣玄斎】、極札は「武田
若狭守元信新勅撰和歌集全【古筆別家琴山
名守直】」（六頁図版参照）。これらは「新
勅撰集折紙并外題」（別筆）と打付書きし
た奉書紙に収められている。折紙・極札は
武田元信（？一五二一）と断じているが、
無論古筆家の鑑定の際として俄には信じ難
い。しかし、無下に否定し得るものではな
い。元信は戦国時代の武將で、文武両道に
互って注目すべき事績を残した一人なので
あるから。元信については、米原正義博士

の『戦国武士の文芸の研究』に詳しい。こ
れに拠りつつ略記する。「元信は若狭守護
將軍の信任篤く、文武兼備の良將。歌道に
秀で、能筆家でその筆跡が二葉軒（飛鳥井
雅康、法名末世）に近似していたので俗に
若狭二葉と号したほどで、殊に雅康とは昵
懇の間柄であった。また騎射に堪能で蹴鞠
にも長じ、武家故実書の作成にも極めて意
欲的であった」という。確かに終始幕府へ
の忠勤に励む傍ら、貴族文化への志向が強
く、三条西実隆をはじめ雅康や連歌師宗祇・
宗長らとの親交もあり、その旺盛な文芸活
動振りは当代の諸記録が物語るところ。

本書に元信の奥書・識語や花押が存すれ
ば、筆跡判定の手掛りになろうが何もない。
次なる手段は幾つかの基準遺墨との書風比
較を試みることに。然れども元信の伝存遺墨
は尠なく、披見し得た数葉の和歌短冊を以
て断を下すには無理がある。幸いなことに
元信筆の他の文献資料が伝存する由、後日
精査のうえ判定すべく、今は系統分類の問
題と共に今後の研究課題としたい。筆跡の
問題は残るものの、本書は元信の古典文学
愛好、文芸受容の実相考察のための恰好な
参考資料になり得ると言えよう。

（文学部助教 せんそう・あきお）

外国の図書館シリーズ
—その1—

モンタナ大学

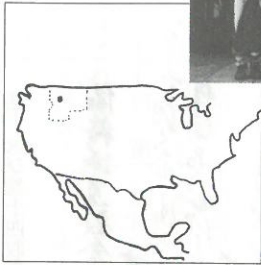
浦田 誠親

モンタナ大学の図書館では、日本の大学図書館に

はないサービスのよさを感じることが多かった。日曜日の開館、たっぷりとしたスペース。一部を除いてすべて開架式でどこへも自由に入って行ける書庫はもちろん、書架のわきに机と椅子が置いてあり、必要な本を取り出してその場で勉強することができる。そのほかに書庫内に防音のガラス戸で仕切られた部屋が設けられており、そこではグループの勉強会や討論も可能である。先生方は学生に種々の参考文献の一定ページを読んでくるといって授業で指示するが、一方であらかじめ図書館にそうした文献を用意させておく。学生は窓口に行って文献をほんのわずかな時間借り出し、すぐ向かいのコピー係に必



(左から2人目が筆者)



要なページだけをコピーしてもらおう。コピー代は一枚につき六セントだが、紙の裏表を使うとやはり六セントと割安になる。先生に読んでくれるよう指示された書籍をいちいち買っていたら、学生はお金がかかってたまるまいが、先生と図書館の連携、それに図書館のサービスで学生は書籍代は大幅に節約することができる。

モンタナ大学の図書館は、この大学の卒業生であり元教授であったマイク・マンズフィールド元上院議員・駐日大使の名前を冠しており、議会活動をしていた時代のマンズフィールド氏のドキュメントをすべて所蔵している。米国の戦中・戦後の内政・外交史を研究する者にとって貴重な資料の宝庫である。

(文学部教授・うらたのぶちか)

節約することができる。

モンタナ大学の図書館は、この大学の卒業生であり元教授であったマイク・マンズフィールド元上院議員・駐日大使の名前を冠しており、議会活動をしていた時代のマンズフィールド氏のドキュメントをすべて所蔵している。米国の戦中・戦後の内政・外交史を研究する者にとって貴重な資料の宝庫である。

図書館アラカルト

夏休み貸出し

★白山

期 間 7月13日(月)～9月7日(月)
返却期限 9月21日(月)
冊 数 5冊まで

★朝霞

期 間 7月24日(金)～9月3日(木)
返却期限 9月19日(土)
冊 数 5冊まで

★工学部

期 間 7月20日(月)～8月27日(木)
返却期限 9月19日(土)
冊 数 10冊

※「コスモス」は今回(98号)から縦組みに変更いたしました。

ΚΟΣΜΟΣ (No.98)

1992年7月16日発行

発行人：松本恒之

発行所：東洋大学図書館

〒112 文京区白山5-28-20

TEL 03-3945-7314

© 東洋大学図書館 1992